

令和3年度学校運営連絡協議会実施報告書

都立大江戸高等学校（定時制課程）

1 組織

- (1) 東京都立大江戸高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 事務局（3名）
副校長、主幹教諭（教務主任）、主幹教諭（総務主任・事務局長）
- (3) 内部委員の構成（8名）
校長、副校長（2名）、経営企画室長、主幹教諭（教務主任）、主幹教諭（生活指導主任）、主幹教諭（進路指導主任）、主幹教諭（総務主任）
- (4) 協議委員の構成（9名）
学識経験者（大学教授）、江東区教育委員会、深川警察署生活安全課、千石2・3丁目町会会長、江東区立川南小学校長、江東区立深川第四中学校長、都立江東特別支援学校長、江東区教育センターブリッジスクール指導員、本校教育振興会役員

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容
 - 第1回 令和3年6月18日（金） 書面開催
 - ①学校長挨拶、②協議委員・評価委員委嘱状交付、③委員紹介、④学校運営連絡協議会設置要綱及び年間計画について、⑤令和2年度学校経営報告、⑥令和3年度学校経営計画、⑦本校の現状と課題について、⑧事務連絡
 - 第2回 令和3年11月26日（金） 内部委員6名、協議委員6名
 - ①学校長挨拶、②本校の現状と課題の説明、③学校評価について、④学校サポートチーム会議、⑤学校いじめ防止基本方針の説明、④意見交換、⑤事務連絡
 - 第3回 令和4年2月28日（月） 書面開催
 - ①学校長挨拶、②今年度の各分掌の取り組み報告（教務部、進路指導部、生活指導部、総務部）、③学校評価アンケート結果報告、④事務連絡
- (2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容
 - 第1回 令和3年11月26日（金） 内部委員2名、協議委員1名
 - ①学校評価の基本方針の確認、②今年度の学校評価の観点・項目・内容・実施時期の検討
 - 第2回 令和4年2月28日（月） 書面開催
 - ①アンケート集計結果の分析・考察・課題の整理、②評価報告書（原案）の確認（郵送後、ご意見等の各委員からの確認を行った）

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点 「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
 - ・「学校への理解」 学校経営計画の周知、地域・保護者への情報の周知、生活指導方針及び進路指導方針の周知がなされているか。
 - ・「学校の意欲」 教職員の組織的な取り組み、保護者や地域との連携、学校施設の一層の開放及び公開講座の充実等、地域に開かれた学校の推進が行われているか。
 - ・「学校の実践」 単位制・総合学科・3部制の特色を生かした学習活動及び学校生活の実現が図れ

ているか。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月	全校生徒	対象：598人	回収：289人	回収率：48%
・12月	保護者全員	対象：597人	回収：237人	回収率：40%
・12月	地域住民	対象：30人	回収：28人	回収率：93%
・12月	教職員	対象：56人	回収：39人	回収率：70%

(3) 主な評価項目

- ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフワークバランス

(4) 評価結果の概要

- ・TEAMSによる教員アンケート、生徒アンケートを実施した。集計が楽になった反面、回答率が昨年度に比べて減少した。
- ・本校の生活指導、進路指導、体験活動、学校行事などについては、多くの生徒が肯定的に受け止めている。
- ・保護者や地域住民は全体的には肯定意見の方が多いが、「情報がなくわからない」と回答している項目もやや多い。
- ・教職員は概ね肯定的な評価をしている。
- ・地域住民の学校の取り組みに関する評価が高まり、回収率も高かった。

(5) 評価結果の分析・考察

- ・評価項目「進学・就職などに関する進路指導は十分行われている」「入学してよかった」での生徒の肯定的評価値が下がった。年度当初4月5月の約2か月に及ぶ自宅学習期間があったことに加え、始業式・入学式・新入生歓迎会・遠足・体育祭・文化祭・修学旅行・進路ガイダンス・インターンシップ・ボランティア体験・講演会等の学校行事が中止または延期になったことが原因と考えられる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校の教育課題に対して多面的な助言をいただき指導の改善に生かすことができた。
- ・地域や関係諸機関との連携を図った防災訓練など、防災教育の推進を図ることができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・「新しい生活様式」を踏まえた取組を推進することによって、生徒の学校評価を肯定的なものへと変えていくことが必要である。
- ・学校情報の回覧等を活用して、地域住民への情報提供を効果的に行うことが必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学習活動

- ・ICT機器を活用した学習指導等の推進と授業力向上のための研修を行う。
- ・土曜講習、平日補講、長期休業を利用した補習など組織的・計画的に実施し、学習支援体制を整備する。

(2) 生活指導

- ・全教職員が共通理解のもと、遅刻防止、頭髪・服装等の生活指導を行う。特に情報機器の適切な利用（SNSルール）を徹底する。
- ・自立支援チームや教育支援委員会と連携し、特別な支援が必要な生徒への指導を充実させる。

(3) 進路指導

- ・1年次から計画的なキャリア教育を実施することにより生徒が進路における自己実現や社会性の育成を図ることができるよう支援する。

(4) 特別活動・部活動

- ・学校への帰属意識向上のために、学校行事をより充実させる。
- ・生徒会活動や部活動に生徒が積極的に参加できるよう教員の指導体制を整え、部活動には外部指導員を積極的に導入し、活性化を図る。

(5) 健康づくり

- ・学校給食を活用した食育を推進し、正しい食生活、食に関する知識・理解を深めさせる。

(6) 募集・広報活動

- ・校内外の学校説明会や中学校訪問等を通じて学校情報の提供を効果的に行う。
- ・学校ホームページの充実を図り、適宜内容を更新する。

(7) 学校経営・組織体制

- ・企画調整会議を中心とし、一体となった学校運営体制を構築する。
- ・施設・設備の安全管理を徹底するとともに地域と連携して防災教育の推進を図る。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9名

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	1				1	4

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

参加実績 なし

8 その他

- ・生徒アンケートでは昨年度に続きスマートフォンやPCで入力する方法の活用が定着してきた。保護者アンケートについては、紙ベースで実施したが、昨年度の3・4次生保護者へのスマートフォンやPCで入力する方法との回収率に大きな変化は見られなかった。